大畑恵　令和8年11月度特別作品

出勤の平田バイパス　　大畑 恵

私は、三十年近く、朝の出勤時に平田バイパスを利用しています。晴れの日も、雨の日も、風の日も、仕事のある日は通った道。そろそろ退職を、と思っているのですが、長年通った道を、あらためて思うこの頃です。

梅が咲き、山桜が山を彩り、萩が咲き、それを楽しんで車を走らせました。真っ直ぐな道を走りながら、色々な思いを、働くモードに切り替えます。そして、一番楽しいのは、眼下に広がる瀬戸の海です。夕暮れ時は、色々な表情を見ることができます。瀬戸の海に満月の出ている時が、一番感動します。また、晴れた日は、私の故郷の四国の山々が遠くに見えていて、日々癒されています。三十年の間には、色々なことがありましたが、この道を使うのも、あと少しになりました。毎日通ったバイパスは、今後は、私の散歩道になっていくことでしょう。

車止め梅の香りの中に居り
山桜去年と同じ場所に咲き
島影を船進みゆく春の瀬戸
通ひ道景色変はりて竹の秋
えごの花咲いて散りゆく通ひ道
秋澄むや眼下に見ゆる瀬戸の海
退く日近しと思ふ秋の朝
満月の昇りきつたり瀬戸の海
看護して五十年過ぐ秋日和
萩の花道に零れて舞つてをり

《作品鑑賞》　　高尾ひとみ

毎朝の出勤に通るバイパス。退職の日が近づき、自分の生活の中の大切な場所だったことを感じておられるのです。看護師という仕事は、人の命に関わるやりがいのあるものです。それだけに、時にはつらい思いをされることもあったかと思います。思い出を語らずとも、バイパスの景色を思い出せば、それらのことが蘇ってくるのではないでしょうか。作者は、春から秋のバイパスの景色を十七文字に描かれました。私も、退職を目前にした時、万感の思いで桜を眺めたことを思い出しました。

車止め梅の香りの中に居り

停車帯に車を止め、外に出て梅の香りを胸いっぱい吸い込みます。そこに梅の木があり、梅の香りがすることを作者はよく知っているのです。

山桜去年と同じ場所に咲き

山桜はあちらこちらにぽつんぽつんと咲きます。その場所を覚えていて、今年もあそこに咲いた、と久しぶりの友に会ったような嬉しい気持ちなのです。

退く日近しと思ふ秋の朝

あと何か月、あと何日、と残りの日を数えます。少し寒さを覚えるようになった秋の朝、その思いが心に溢れます。

満月の昇りきつたり瀬戸の海
看護して五十年過ぐ秋日和

五十年という歳月を看護に身を捧げてこられた、そのみごとな達成感を感じます。これからも、温かで実り豊かな人生を送られますように。